

もち米をめぐる状況

令和3年11月

公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構 もち米事業部

目 次

1. 生 産

- (1) 検査実績・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) もち米の道府県別作付上位品種・・・・・・・・・・ 2

2. 流 通

- (1) 集荷・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 契約栽培等の販売・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 販売数量・・・・・・・・・・・・・ 5
- (4) 米加工食品における原料使用状況・・・・・・・・・・ 6
- (5) 米加工食品の生産状況・・・・・・・・・・・・・ 8

3. 加工原材料用米穀の使用状況・・・・・・・・・・・・・ 11

4. 消費

- もちの購入量・・・・・・・・・・・・・ 12

5. 価 格

- (1) 生産者価格・・・・・・・・・・・・・ 13
- (2) 販売価格・・・・・・・・・・・・・ 14
- (3) 小売価格・・・・・・・・・・・・・ 15

6. 輸出入

- (1) もち米等の輸入・・・・・・・・・・・・・ 16
- (2) 米・米加工品の輸出・・・・・・・・・・・・・ 18

1. 生産

(1) 検査実績

① 水稲もち米の検査実績をみると、平成26年産うるち米の価格低迷等により、もち米の作付面積が増えて平成27年産（約224千トン）、平成28年産（約250千トン）と増加傾向にあったが、その後のもち米の在庫増や主食用うるち米へのシフトにより令和元年産では174千トン（対前年産比97%）となっている。

なお、令和2年産については、令和3年3月31日現在で前年産同期検査数量(167千ト)対比105%の約176千トンとなっている。

② 検査等級別にみれば、その比率に大きな変化はなく、1等が約5割、2等が約4割となっている。

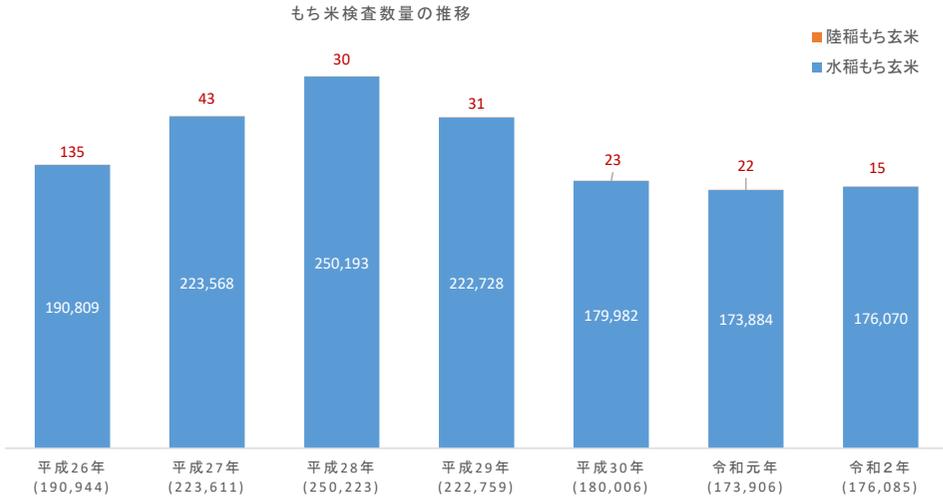
③ 令和元年産に関して産地銘柄別にみると、平成29・30年産において減少幅が大きかったみやこがねもち（宮城県）・わたぼうし（新潟県）・ヒメノモチの減少が幅が小さくなった一方で、ヒヨクモチが九州地域の不作の影響により大きく減少した。

なお、北海道産の風の子もち、はくちょうもち、及びきたゆきもちについては2割を越える増加幅になっている。

④ もち米の主産地は順位の変動はあるがほぼ固定化しており、上位10道県を合わせた検査数量は、全体の約8割以上を占めている。

(参考)

(単位:トン)



① 種類別検査数量 (単位:トン)

区分	30年産		元年産		前年産との比較		2年産		前年産との比較	
	①	②	②-①	②/①	②-①	②/①	③	③-②	③/②	
もち玄米	180,006	173,906	▲ 6,100	97%	176,085	2,179	101%			
水稲もち玄米	179,982	173,884	▲ 6,098	97%	176,070	2,186	101%			
陸稲もち玄米	23	22	▲ 1	96%	15	▲ 7	68%			

注:各翌年10月31日現在の確定値である。ただし、2年産については令和3年3月31日現在のものである。(以下、同様。)

資料:農林水産省「農産物検査結果」(以下、同様。)

② 水稲もち玄米の等級別検査数量 (単位:トン)

区分	30年産		元年産		前年産との比較		2年産		前年産との比較	
	①	②	構成比	②-①	②/①	③	構成比	③-②	③/②	
水稲もち玄米	179,982	173,884	(100%)	▲ 6,098	97%	176,070	(100%)	2,186	101%	
1等	91,026	92,276	53%	1,250	101%	93,787	53%	1,511	102%	
2等	76,127	67,428	39%	▲ 8,699	89%	70,958	40%	3,530	105%	
3等	7,844	7,340	4%	▲ 504	94%	6,924	4%	▲ 416	94%	
規格外	4,985	6,840	4%	1,855	137%	4,401	3%	▲ 2,439	64%	

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

③ 水稲もち玄米の品種別検査数量 (単位:トン)

区分	30年産		元年産		前年産との比較		2年産		前年産との比較	
	①	②	構成比	②-①	②/①	③	構成比	③-②	③/②	
産地品種銘柄計	172,031	165,691	(100%)	▲ 6,340	96%	169,064	(100%)	3,373	102%	
うち、上位10品種	139,440	137,275	83%	▲ 2,165	98%	140,045	83%	2,770	102%	
ヒヨクモチ	35,382	24,129	15%	▲ 11,253	68%	28,299	17%	4,170	117%	
ヒメノモチ	21,476	20,633	12%	▲ 843	96%	22,125	13%	1,492	107%	
風の子もち	14,883	18,872	11%	3,989	127%	20,241	12%	1,369	107%	
たつこもち	14,693	16,095	10%	1,402	110%	11,554	7%	▲ 4,541	72%	
はくちょうもち	10,682	12,994	8%	2,312	122%	13,407	8%	413	103%	
こがねもち	12,320	12,732	8%	412	103%	14,311	8%	1,579	112%	
わたぼうし	11,405	11,166	7%	▲ 239	98%	10,411	6%	▲ 755	93%	
きたゆきもち	7,155	9,127	6%	1,972	128%	9,615	6%	488	105%	
きぬのはだ	6,847	7,288	4%	441	106%	5,381	3%	▲ 1,907	74%	
みやこがねもち	4,597	4,240	3%	▲ 357	92%	4,702	3%	462	111%	

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

④ 水稲もち玄米の主要県別検査数量 (単位:トン)

区分	30年産		元年産		前年産との比較		2年産		前年産との比較		
	産地	検査数量	産地	検査数量	②-①	②/①	産地	検査数量	③-②	③/②	
全国計		(100%)		(100%)				(100%)			
		179,982		173,884	▲ 6,098	97%		176,070	2,186	101%	
順位	1	北海道	36,318	北海道	44,347	8,029	122%	北海道	46,072	1,725	104%
	2	新潟	25,239	秋田	25,202	1,057	104%	新潟	24,985	718	103%
	3	秋田	24,145	新潟	24,267	▲ 972	96%	秋田	19,900	▲ 5,302	79%
	4	佐賀	21,994	佐賀	14,747	▲ 7,247	67%	佐賀	17,437	2,690	118%
	5	熊本	11,154	岩手	9,076	▲ 120	99%	岩手	9,879	803	109%
	1~5計	(66%)	118,849	(68%)	117,640	▲ 1,209	99%	(67%)	118,273	633	101%
順位	6	岩手	9,196	熊本	8,524	▲ 2,630	76%	熊本	9,150	626	107%
	7	千葉	7,361	千葉	7,017	▲ 344	95%	千葉	7,782	765	111%
	8	山形	7,201	山形	6,842	▲ 359	95%	山形	7,324	482	107%
	9	宮城	4,878	宮城	4,339	▲ 539	89%	宮城	4,786	447	110%
	10	富山	4,156	富山	4,028	▲ 128	97%	富山	3,908	▲ 120	97%
	1~10計	(84%)	151,642	(85%)	148,389	▲ 3,253	98%	(86%)	151,223	2,834	102%

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(2)もち米の道府県別作付上位品種

●もち米の道府県別作付上位品種

(単位:%)

令和2年産もち米の作付上位品種割合について、前年産対比で

- ・北海道では、道内作付1位の風の子もちが微増
 - ・秋田県では、たつこもちが減少
 - ・千葉県では、ヒメノモチが減少
 - ・新潟県では、こがねもちが微増
 - ・佐賀県では、作付けの大多数を占めるヒヨクモチが減少
 - ・大分県では、ヒヨクモチに代わってハクトモチが1位の作付割合
 - ・静岡県では、峰の雪もちに代わって葵美人が1位の作付割合
- などの状況となっている。

また、主なもち米品種の作付状況について、

- ・ヒメノモチは、主要産地の岩手県、山形県で7～8割
- ・ヒヨクモチは、福岡県、佐賀県、熊本県で8～10割
- ・みやこがねもちは、宮城県で9割以上

道府県	令和元年産						令和2年産					
	作付順位(道府県のもち米作付面積に占める割合)						作付順位(道府県のもち米作付面積に占める割合)					
	1位		2位		3位		1位		2位		3位	
	品種	割合	品種	割合	品種	割合	品種	割合	品種	割合	品種	割合
北海道	風の子もち	37.2	はくちようもち	33.0	きたゆきもち	26.8	風の子もち	38.0	はくちようもち	32.3	きたゆきもち	27.1
青森	あかりもち	60.0	アネコモチ	40.0			あかりもち	69.1	アネコモチ	30.9		
岩手	ヒメノモチ	77.6	こがねもち	12.9	もち美人	6.8	ヒメノモチ	78.4	こがねもち	13.5	もち美人	5.9
宮城	みやこがねもち	95.8	ヒメノモチ	3.2	こもちまる	1.0	みやこがねもち	97.4				
秋田	たつこもち	65.2	きぬのはだ	34.8			たつこもち	60.0	きぬのはだ	32.0		
山形	ヒメノモチ	70.4	でわのもち	11.1	こゆきもち	7.4	ヒメノモチ	70.5	こゆきもち	8.9		
福島	こがねもち	72.6	ヒメノモチ	27.4			こがねもち	75.7	ヒメノモチ	24.3		
茨城	マンゲツモチ	92.6	ヒメノモチ	3.7	ココノエモチ	3.7	マンゲツモチ	93.2	ヒメノモチ	4.1	ココノエモチ	2.2
栃木	きぬはなもち	83.3	ヒメノモチ	8.3			きぬはなもち	85.7				
群馬	群馬糯5号	45.5	まんぶくもち	7.6	マンゲツモチ	3.8	群馬糯5号	58.4	まんぶくもち	11.7		
埼玉	峰の雪もち	50.0					峰の雪もち	46.2				
千葉	ヒメノモチ	78.6	ふさのもち	21.4			ヒメノモチ	67.6	ふさのもち	14.7		
神奈川	喜寿糯	80.8	マンゲツモチ	13.7			喜寿糯	80.8	マンゲツモチ	13.7		
新潟	こがねもち	47.6	わたぼうし	42.9			こがねもち	50.0	わたぼうし	40.9		
富山	新大正糯	67.2	とみちから	19.4	らいちようもち	5.9	新大正糯	67.3	とみちから	19.5	らいちようもち	4.8
石川	カグラモチ	39.6	白山もち	31.9	石川糯24号	14.1	カグラモチ	38.3	白山もち	32.5	石川糯24号	13.7
福井	カグラモチ	54.0	タンチョウモチ	46.0			カグラモチ	51.3	タンチョウモチ	48.7		
山梨	こがねもち	28.9	マンゲツモチ	25.3	黒米朝紫	15.7	こがねもち	25.3	マンゲツモチ	22.9	朝紫	16.9
長野	もちひかり	61.4	モリモリモチ	20.1	カグヤモチ	3.3	もちひかり	60.5	モリモリモチ	23.2	カグヤモチ	3.9
岐阜	たかやまもち	71.7	モチミノリ	18.8	ココノエモチ	9.0	たかやまもち	72.3	モチミノリ	20.6	ココノエモチ	6.6
静岡	峰の雪もち	40.1	葵美人	37.0	ヒヨクモチ	22.8	葵美人	39.6	峰の雪もち	37.1	ヒヨクモチ	23.3
愛知	十五夜糯	20.0	喜寿糯	8.0	ココノエモチ	8.0	十五夜糯	21.7	ココノエモチ	8.7	こはるもち	8.7
三重	あゆみもち	47.1	カグラモチ	23.5	喜寿糯	11.8	あゆみもち	43.9	カグラモチ	25.1	喜寿糯	12.5
滋賀	滋賀羽二重糯	86.0					滋賀羽二重糯	87.6				
京都	新羽二重糯	100.0					新羽二重糯	95.5	カグラモチ	4.5	(3位以下の品種はうるち米に含まれる。)	
大阪	モチミノリ	100.0					モチミノリ	100.0				
兵庫	はりまもち	35.1	ヤマフクモチ	23.1			はりまもち	33.7	ヤマフクモチ	25.1		
奈良	旭糯	30.4	ココノエモチ	25.3			旭糯	37.8	ココノエモチ	31.7		
和歌山	モチミノリ	86.5					モチミノリ	86.5				
鳥取	ヒメノモチ	41.8	ハクトモチ	39.6			ヒメノモチ	38.5	ミコトモチ	24.1	ココノエモチ	19.5
島根	ヒメノモチ	42.1	ココノエモチ	24.6	ミコトモチ	19.1	ヒメノモチ	51.4	ココノエモチ	24.3	ヤシロモチ	10.8
岡山	ヒメノモチ	51.3	ココノエモチ	25.6	ヤシロモチ	9.0	ヒメノモチ	51.6	ココノエモチ	40.0	タンチョウモチ	7.7
広島	ヒメノモチ	53.7	ココノエモチ	38.1	タンチョウモチ	8.1	ヒメノモチ	51.6	ココノエモチ	40.0	タンチョウモチ	7.7
山口	ミヤタマモチ	47.8	マンゲツモチ	26.1	ヒヨクモチ	13.0	ミヤタマモチ	50.0	マンゲツモチ	25.0	ヒヨクモチ	10.0
徳島	モチミノリ	81.0					モチミノリ	78.9				
愛媛	クレナイモチ	37.0	モチミノリ	18.5			モチミノリ	42.3	クレナイモチ	34.6		
高松	たまひめもち	16.7	サイワイモチ	11.1	ヒデコモチ	5.6	たまひめもち	18.2	サイワイモチ	13.8	ヒデコモチ	8.8
福岡	ヒヨクモチ	100.0	(2位以下の品種はうるち米に含まれる。)				ヒヨクモチ	100.0	(2位以下の品種はうるち米に含まれる。)			
佐賀	ヒヨクモチ	98.8	ヒデコモチ	0.9			ヒヨクモチ	95.0	ヒデコモチ	0.8		
長崎	ヒヨクモチ	20.6	サイワイモチ	12.3	モチミノリ	7.7	ヒヨクモチ	18.6	モチミノリ	16.6	サイワイモチ	13.1
熊本	ヒヨクモチ	83.7	峰の雪もち	5.3			ヒヨクモチ	83.5	峰の雪もち	5.5		
大分	ヒヨクモチ	16.2	ハクトモチ	12.3	ひみこもち	3.2	ハクトモチ	20.1	ヒヨクモチ	17.2	ひみこもち	4.0
宮崎	クスタマモチ	44.7	いわともち	17.6	ヒヨクモチ	7.9	クスタマモチ	45.7	いわともち	18.4	ヒヨクモチ	9.4
鹿児島	さつま綱もち	50.0	さつま雪もち	20.0	峰の雪もち	15.0	さつま綱もち	58.8	さつま雪もち	17.6	峰の雪もち	11.8
沖縄	ゆがふもち	28.0					ウルマモチ	8.8				

注1. 公益社団法人米穀安定供給確保支援機構(情報部)公表資料「水稻の品種別作付動向について」より作成。

注2. 品種別の作付面積に占める割合は、道府県行政等からの情報提供いただいた数値を用いて推計した。

注3. 千葉県は平成30年産より推計方法を変更したため、平成29年産までのデータと単純比較できない旨、県から申出があった。

2. 流通

(1) 集荷

出荷団体では主食用の他に加工用等の集荷も行っているが、ここでは主食用に限って取りまとめたものである。

① もち米(主食用)の集荷数量

(単位:トン)

区 分	30年産		元年産		前年産との比較		2年産		前年産との比較	
	①	②	②-①	②/①	③	③-②	③/②			
道府県数	42	41			41					
集荷数量	76,387	72,114	▲ 4,273	94%	79,475	7,361	110%			
水稲もち	76,374	72,096	▲ 4,278	94%	79,465	7,369	110%			
陸稲もち	13	18	5		10	▲ 8				

注: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 全国出荷団体の水稲もち米(主食用)集荷量は、平成29年産まで10万トン内外であったが、平成30年産以降7万トン台の水準で推移しており、検査数量に占める比率は40%強程度となっている。

(参考) 水稲もち米の総検査数量と水稲もち米(主食用)の集荷数量

年産	水稲もち米 総検査数量①	水稲もち米(主食用) 集荷数量②	比率 ②/①
30	179,982トン	76,374トン	42%
元	167,492トン	72,096トン	43%
2	176,070トン	79,465トン	45%

② 水稲もち米(主食用)の主要県別集荷数量

(単位:トン)

区 分	30年産		元年産		前年産との比較		2年産		前年産との比較	
	①	②	②-①	②/①	③	③-②	③/②			
	県名	集荷数量	県名	集荷数量			県名	集荷数量		
全国計		(100%) 76,374		(100%) 72,096	▲ 4,278	94%		(100%) 79,465	7,369	110%
順	1	北海道 25,153	北海道 31,791	6,638	126%	北海道 34,120	2,329	107%		
	2	佐賀 18,441	佐賀 10,860	▲ 7,581	59%	佐賀 13,542	2,682	125%		
	3	岩手 7,201	岩手 5,857	▲ 1,344	81%	岩手 7,015	1,158	120%		
	4	新潟 5,543	新潟 5,715	172	103%	新潟 6,312	597	110%		
	5	熊本 3,392	熊本 2,846	▲ 546	84%	熊本 3,111	265	109%		
	1~5計	(78%) 59,730	(79%) 57,069	▲ 2,661	96%	(81%) 64,100	7,031	112%		
位	6	福岡 2,404	宮城 2,021	▲ 253	89%	宮城 2,425	404	120%		
	7	宮城 2,274	山形 1,852	601	148%	山形 1,855	3	100%		
	8	岐阜 2,000	岐阜 1,793	▲ 207	90%	秋田 1,756	229	115%		
	9	富山 1,439	福岡 1,790	▲ 614	74%	福岡 1,687	▲ 103	94%		
	10	秋田 1,406	秋田 1,527	121	109%	岐阜 1,444	▲ 349	81%		
	1~10計	(91%) 69,253	(92%) 66,052	▲ 3,201	95%	(92%) 73,267	7,215	111%		

注: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

② 水稲もち米の検査数量上位10道県では、総検査数量に対する水稲もち米(主食用)の集荷数量が多い産地は北海道、佐賀県、岩手県、逆に少ない産地は秋田県、千葉県となっている。

(参考) 主産地における水稲もち米の総検査数量と水稲もち米(主食用)の集荷数量

産地	水稲もち米の総検査数量 (30~2年産平均)①	水稲もち米(主食用)の集荷 数量(30~2年産平均)②	比率 ②/①
北海道	42,233トン	30,355トン	72%
新潟	24,820トン	5,857トン	24%
秋田	21,178トン	1,563トン	7%
佐賀	18,058トン	14,281トン	79%
熊本	9,541トン	3,116トン	33%
岩手	9,379トン	6,691トン	71%
千葉	7,380トン	43トン	1%
山形	7,122トン	1,653トン	23%
宮城	4,640トン	2,240トン	48%
富山	4,030トン	1,375トン	34%

(2) 契約販売

○ 契約販売の仕組み

もち米(主食用)の販売は、「契約栽培」、「年間契約」、「スポット取引」の3つの方法で行われている。

契約栽培については、品質・用途別の需要に対応し、安定した生産と供給を図るため、平成16年産米から複数年契約(は種前契約栽培)が行われている。

また、年間契約は、もち米の出回り時期に、集荷が確実な数量から既契約数量(契約栽培数量)を差し引いたものが産地銘柄別に提示され、販売契約が行われるものである。

全国出荷団体の年間総取扱数量のうち6~7割が契約栽培と年間契約を合わせた契約販売によるものであり、取引は安定したものとなっている。

○ 契約販売数量の推移

もち米(主食用)の販売数量が減少しているに伴い契約販売数量も減少しているが、総販売数量に占める契約販売数量の比率は6~7割で推移している。

(参考)

○ 契約販売数量等の推移

(単位:トン)

米穀年度	契約販売数量 ① (契約栽培+年間契約)	総販売数量 ②	①/②
平成28米穀年度	64,702	97,379	66%
平成29米穀年度	75,317	90,769	83%
平成30米穀年度	60,566	90,833	67%
令和元米穀年度	61,609	91,918	67%
令和2米穀年度	61,201	80,401	76%

注: 全国出荷団体資料による。

○ 契約販売数量

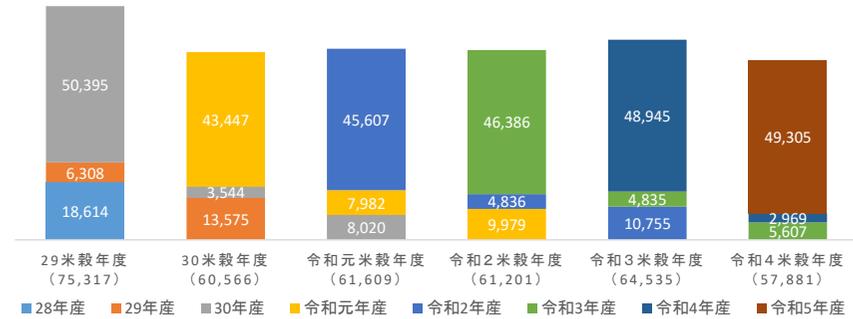
(単位:トン)

米穀年度	年産	契約数量			契約済数量累計
		契約栽培	年間契約	合計	
平成29米穀年度	28年産	10,989	7,626	18,614	69,014
	29年産	6,308	-	6,308	50,576
	30年産	50,395	-	50,395	50,395
平成30米穀年度	29年産	7,948	5,627	13,575	64,151
	30年産	3,544	-	3,544	53,939
	令和元年産	43,447	-	43,447	43,447
令和元米穀年度	30年産	6,797	1,222	8,020	61,959
	令和元年産	7,982	-	7,982	51,429
	令和2年産	45,607	-	45,607	45,607
令和2米穀年度	令和元年産	6,226	3,753	9,979	61,408
	令和2年産	4,836	-	4,836	50,443
	令和3年産	46,386	-	46,386	46,386
令和3米穀年度	令和2年産	7,522	3,233	10,755	61,198
	令和3年産	4,835	-	4,835	51,221
	令和4年産	48,945	-	48,945	48,945
令和4米穀年度	令和3年産	5,607	α	5,607+α	56,828+α
	令和4年産	2,969	-	2,969	51,914
	令和5年産	49,305	-	49,305	49,305

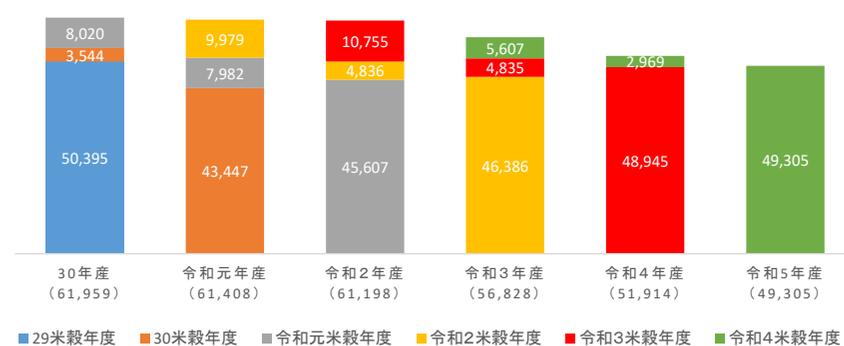
注1: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2: 上表の「α」とは、10月末~12月頃締結予定の年間契約数量であり、3年産はこの年間契約数量を加えた数量が総契約数量となる。

もち米(主食用)の契約販売数量の推移 (米穀年度別)



もち米(主食用)の契約販売数量の推移 (年産別)



(3) 販売数量

① もち米（主食用）の月別販売数量

もち米の販売数量は季節間の変動が大きく、例年、10月頃から年末にかけての3ヶ月間が販売のピークで、平常月の2～3倍の販売量となっている。

もち米の年間販売数量は、近年減少して約9万トン程度で推移しているが、令和2米穀年度については新型コロナウイルス感染症対策の影響により前年度に比べ大きく減少した販売数量（対前年度比87%）となった。

なお、令和3米穀年度11月～7月までの販売合計数量は、前米穀年度同期（59,735トン）対比94.9%となっている。

① もち米（主食用）の月別販売数量 (単位:トン)

区分	平成29米穀年度	平成30米穀年度	令和元米穀年度	令和2米穀年度	令和3米穀年度
11月	11,947	11,540	12,180	11,677	10,681
12月	12,420	13,156	11,973	12,567	11,074
1月	4,671	4,457	4,023	4,734	4,311
2月	5,051	5,539	5,028	5,295	4,493
3月	6,557	8,406	13,475	6,161	6,409
4月	5,640	5,246	5,274	5,662	5,158
5月	4,272	4,336	4,828	3,881	3,706
6月	5,665	5,012	3,949	3,998	4,854
7月	5,541	5,932	4,447	5,777	6,008
8月	6,679	6,263	4,592	4,623	
9月	8,530	6,841	5,558	5,983	
10月	13,797	14,103	16,591	10,043	
合計	90,769	90,833	91,918	80,401	56,692

注：全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

② もち米（主食用）の主要県別販売数量 (単位:トン)

区分	平成29米穀年度		平成30米穀年度		令和元米穀年度		令和2米穀年度		令和3米穀年度		
	県名	販売数量	県名	販売数量	県名	販売数量	県名	販売数量	県名	販売数量	
全国計		(100%) 90,769		(100%) 90,833		(100%) 91,918		(100%) 80,401		(100%) 56,692	
順	1	東京	21,131	新潟	20,010	東京	22,296	新潟	20,315	新潟	14,090
	2	新潟	21,045	東京	18,587	新潟	20,533	東京	17,131	東京	12,687
	3	北海道	7,426	愛知	5,932	愛知	6,141	北海道	8,450	北海道	5,139
	4	愛知	6,056	北海道	5,116	兵庫	5,649	兵庫	5,733	愛知	4,430
	5	兵庫	3,700	兵庫	4,121	北海道	5,511	愛知	5,650	大阪	4,137
	1～5計	(65%) 59,358	(59%) 53,766	(65%) 60,130	(71%) 57,279	(71%) 40,484					
位	6	福岡	2,952	福岡	3,075	福岡	3,398	神奈川	2,250	神奈川	1,736
	7	岐阜	2,418	熊本	2,744	神奈川	2,611	岐阜	1,768	福岡	1,263
	8	神奈川	2,141	岐阜	2,655	熊本	2,322	栃木	1,721	岐阜	1,149
	9	熊本	2,109	宮城	2,550	富山	2,194	熊本	1,644	栃木	1,134
	10	大阪	1,829	神奈川	2,094	岐阜	1,989	富山	1,463	富山	921
	1～10計	(78%) 70,807	(74%) 66,884	(79%) 72,644	(82%) 66,125	(82%) 46,686					

注1：全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2：令和3米穀年度の販売数量は令和2年11月～令和3年7月までの販売数量である。

(単位:トン)

(4) 米加工食品におけるもち米等の原料使用状況

農林水産省「食品産業動態調査」によると、もち米の加工を行う各事業者が使用する原料は、国内産もち米(民間流通米、加工用米、その他)、外国産もち米、米穀粉、輸入米粉調製品などである。

※ 食品産業動態調査は食品需給研究センターがアンケート調査により実施したものであり、必ずしも毎年同じ企業が回答するとは限らないので標本連続性が担保されているわけではないことに留意が必要である。

【令和2年度標本調査の概要】

調査対象 : 調査対象企業数552社
(畜産食料品～酒類まで広範な業種が対象となっている。)
調査時期 : 令和2年4月～令和3年3月
調査方法 : 郵送・FAX・メール・電話による聞き取り
回答企業数: 303社(回答率54.9%)

① 米穀粉製造業

調査回答企業の原料使用実績をみると、令和2年における民間流通、加工用、新規需要米、その他を合わせた国内産もち米の使用比率は全体の約8割であり、平成30年からは新たにもち米等の新規需要米が使用されいている。

一方で調査回答企業による輸入米粉調製品の比率は年々減少し、令和元年においては使用実績がなく、すべて国内産もち米の使用となっている。

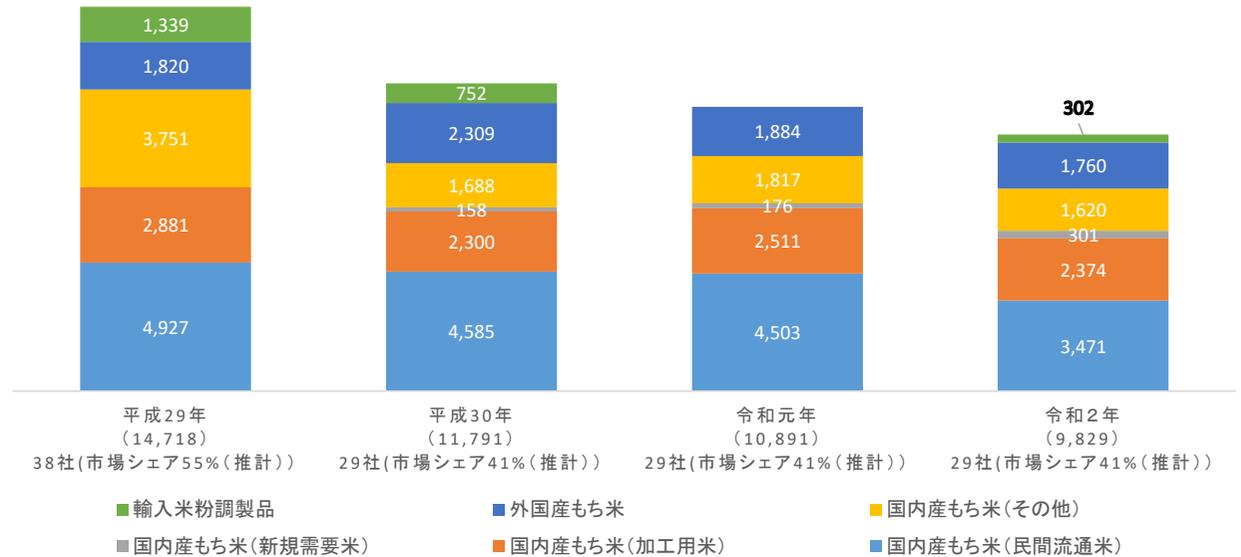
なお、もち米以外の原料として令和2年の調査回答企業のうち米等の使用実績は42,342トンであった。

② 加工米飯製造業

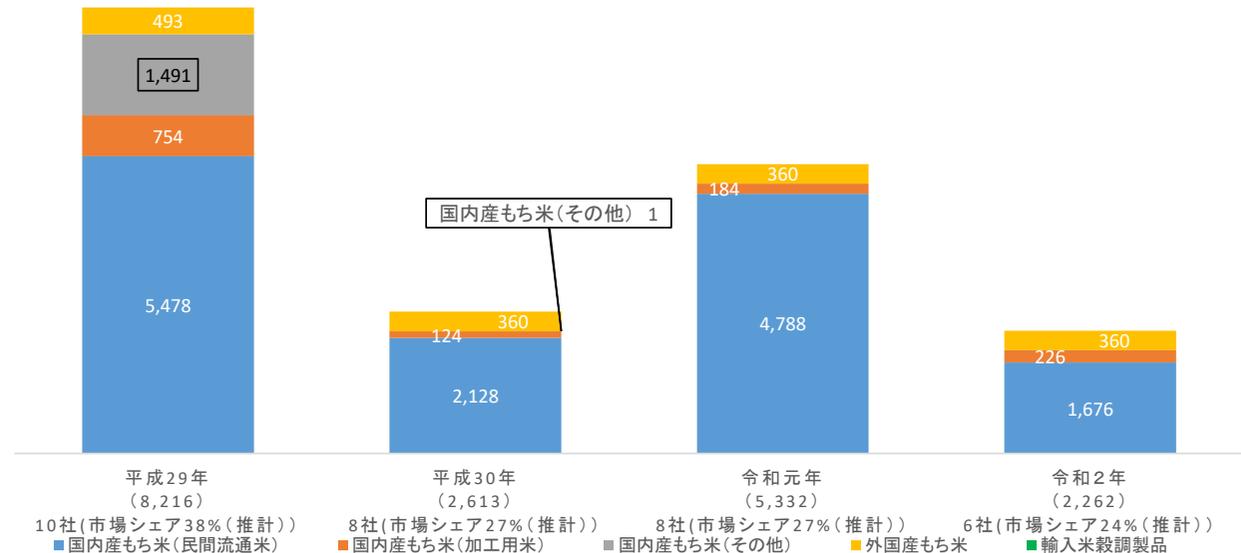
調査回答企業の原料使用実績をみると、令和2年ではもち米等の原料使用数量が前年の42%と大きく減少し、特に民間流通米の使用数量は前年の35%にまで減少した。

なお、もち米以外の原料として令和2年の調査回答企業のうち米等の使用実績は37,225トンであった。

① 米穀粉製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



② 加工米飯製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



③ 米菓製造業

(単位:トン)

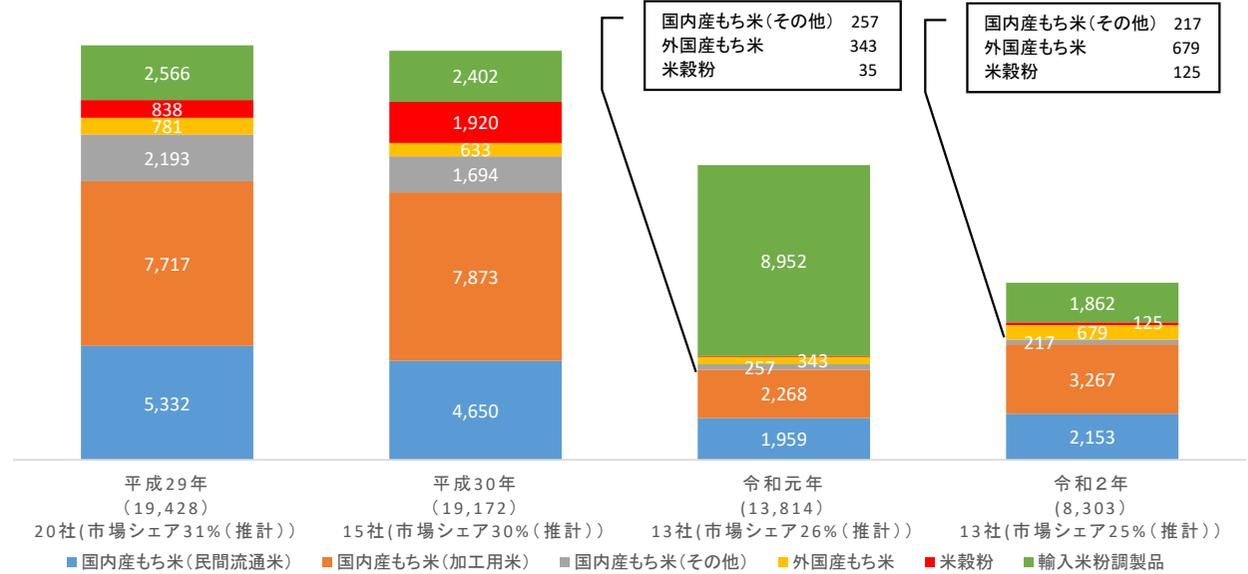
調査回答企業の原料使用実績をみると、令和2年は前年対比60%と大きく減少し、輸入米粉調製品の使用比率が大幅に減少した一方、国内産加工用もち米等の使用量が増加した。

なお、輸入米粉調製品は国内産もち米、外国産もち米の「代替品」として用いられ、年々の国内産もち米、及び外国産もち米の生産及び価格の動向により、その使用数量が大きく変動する特徴を有している。

また、輸入米粉調製品を原料とした生産ラインを有している米菓企業は限定されているので、回答企業にそのような企業が含まれ、たまたま使用量を増加させた場合に令和元年のような数値が示されるが、全体の傾向を示したものとは言えないことに留意が必要である。

一方でもち米以外の原料として令和2年の調査回答企業のうるち米等の使用実績は21,733トンであった。

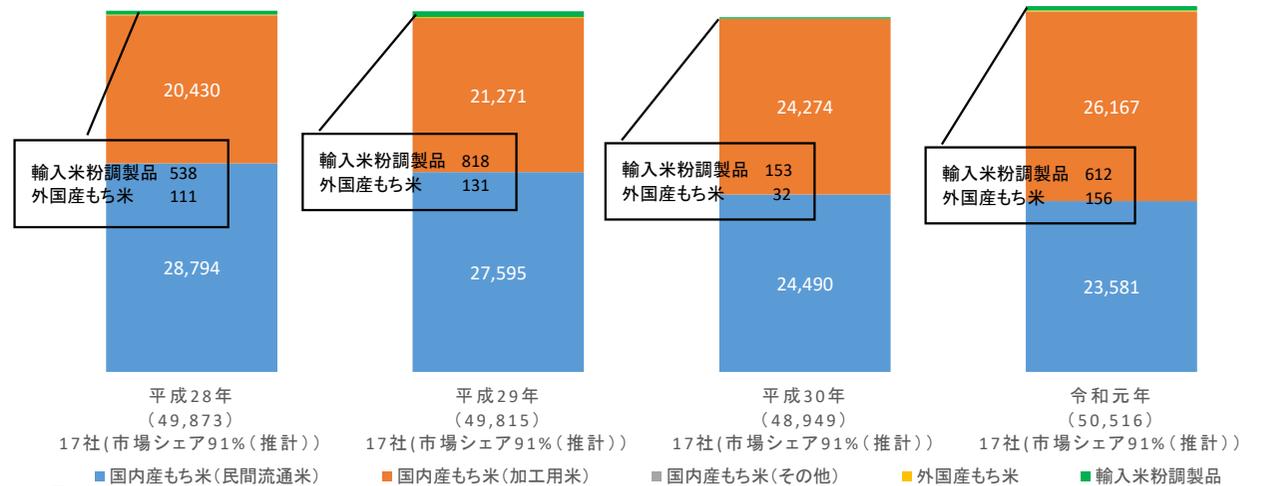
③ 米菓製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



④ 包装もち製造業

調査回答企業の原料使用実績をみると、国内産民間流通もち米と加工用もち米で原料の太宗を占めているが、加工用もち米の使用比率が年々増加し、平成30年では国内産民間流通もち米とほぼ同数量となった。

④ 包装もち製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



(5) 米加工食品の生産状況

① 米穀粉の生産数量

① 米穀粉

令和2年は、生産量全体の4割強を上新粉が占め、残りは、新規米粉(約3割強)、もち粉(約1割弱)、その他となっている。

最近では上新粉やもち粉が減少傾向にある一方で、新規米粉が増加(対前年比114.3%)しており、米穀粉全体の生産量の底上げに寄与している。

(参考)

米穀粉の種類

上新粉：精白したうるち米を水洗いして水切りし、しばらく乾燥させてから製粉したもの。

もち粉：もち米を水洗いして水切りし、しばらく乾燥させてから製粉したもの。

寒梅粉：精白したもち米を水洗いし、水漬けし、蒸して「もち」にして、それを白く焼き上げた後、粉碎(製粉)したもの。

落雁粉：もち米を水洗いしてしばらく乾燥させた後、蒸煮することなく焙煎して、製粉したもの。

みじん粉：もち米(又はうるち米)を蒸煮後、これを乾燥し、焙煎して製粉したもの。

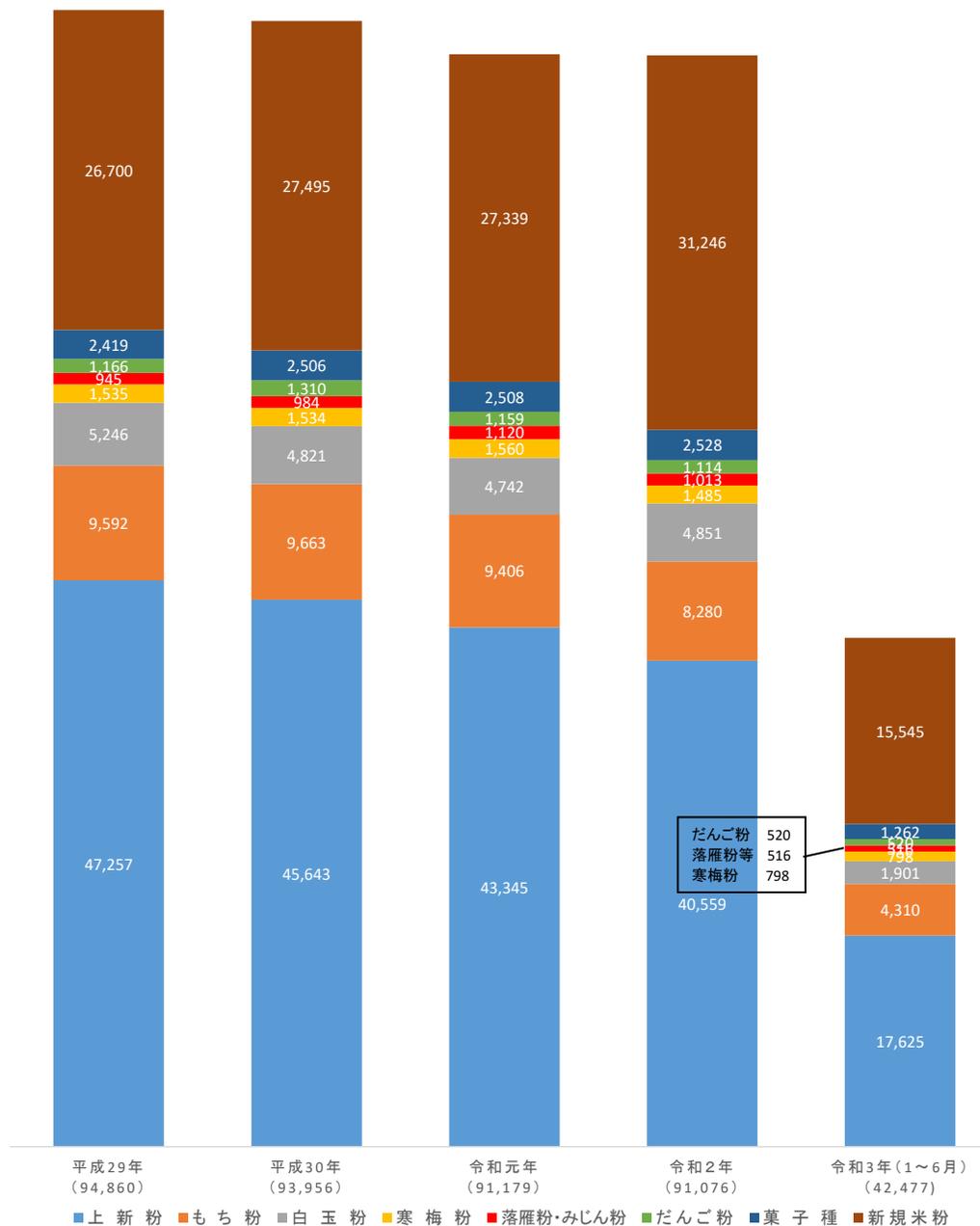
だんご粉：うるち米・もち米を精白し、水洗いしてしばらく水に漬けた後、粉碎(製粉)し、乾燥したもの。

菓子種：道明寺、上南粉などの「粒形」をしたものの総称。

道明寺：もち精米を水に浸し蒸してから乾燥して干飯(ほしいい)を作り、それを粗く砕いたもの。

上南粉：もち米をよく洗い、水に浸し蒸してから乾燥させ粉碎し、少しずつ煎りあげたもの。

新規米粉：従来作られてきた米粉の製法とは異なる新たな製法で、上新粉よりも細かい微細粒粉に製粉したもので、従来の米粉食品以外に、米粉パン、米粉麺、ケーキ、ホワイトソース等、新しい分野に米粉を使う目的で開発されたもの。

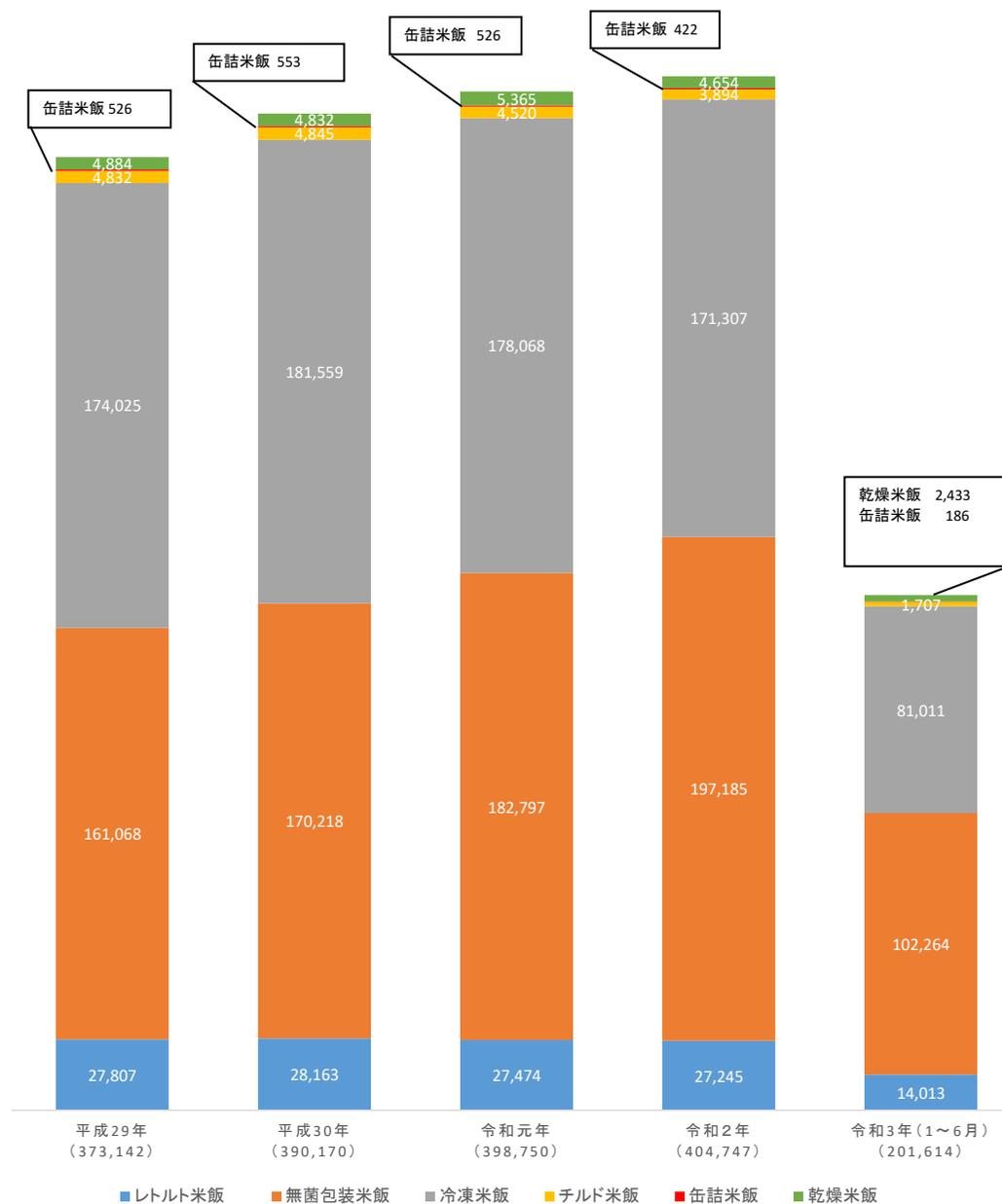


② 加工米飯

令和2年は、生産量全体の約9割を冷凍米飯(42%)と無菌包装米飯(49%)が占めてる。

レトルト米飯が横ばいで推移し、缶詰米飯・チルド米飯が減少している中で、無菌包装米飯が増加しており、加工米飯全体の生産量は増加している。

② 加工米飯の生産数量



(参考)

加工米飯の種類

レトルト米飯: 調理されたご飯を、空気が入らない密閉容器に入れ、高温加熱殺菌したもので、常温で6ヶ月~1年保存できる。白ごはんのほか赤飯、炊き込みご飯、おかゆ、雑炊などがある。

無菌包装米飯: 無菌設備の下、炊きたてのご飯を密閉容器に入れたもので、常温で6ヶ月保存できる。外見はレトルトご飯に似ているが、熱を加えずに包装するので味も良く普通のご飯とほとんど変わらないと言われている。

冷凍米飯: 調理したご飯を-40℃以下で急速冷凍したもので、-18℃で1年間保存できる。ピラフ、チャーハン、焼きおにぎりなどがあり、家庭での利用が増えている。

チルド米飯: 調理したご飯を包装した後殺菌し、利用するまで冷蔵庫で保存するもので、保存期間は2ヶ月くらい。主にデパートなどの食品売場で、出来たてを販売するおこわや赤飯などに利用されている。

缶詰米飯: 調理したご飯を缶に詰め、密閉して高温殺菌したもので、3年間保存できる。炊き込みご飯やおかゆなどがあり、非常食としても利用されている。

乾燥米飯: 調理したご飯を熱風などで急速乾燥させたもので、常温で3年間保存できる。軽くて持ち運びに便利のため、キャンプや登山、災害用非常食に利用される。

③ 米菓

米菓生産の約4割があられ、約6割がせんべいである。
令和2年では、米菓全体の生産量がわずかに減少しているなかで、あられの生産量が増加したのに対し、せんべいの生産量が減少した。

(参考)

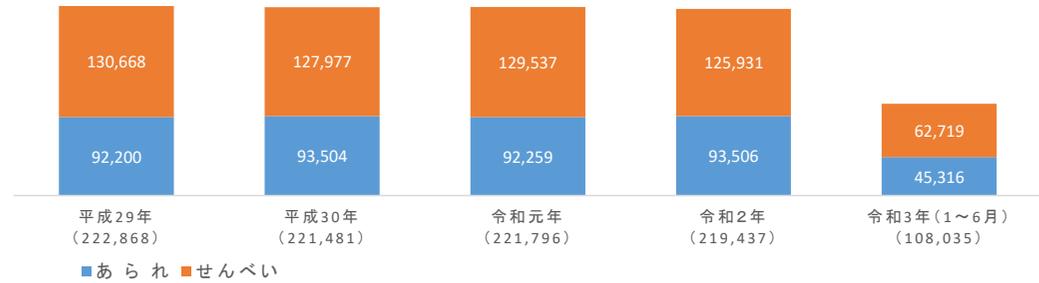
米菓の種類

あられ：原料はもち米で、搗いた餅を冷却して固め、小さく切断して生地にしてから余分な水分を除いた後、焼き窯で焼き上げ、醤油・塩などで味付けをしたもの。小型のものは「あられ」、大型のものは「おかき」、揚げたものは「揚げ餅」と呼ばれる。

せんべい：うるち米を搗いた後、すぐにローラーにより薄く延ばしたものを型抜きして乾燥し、これを焼いたり揚げたりして醤油・塩などで味付けをしたもの。

(単位:トン)

③ 米菓の生産数量



資料:農林水産省「食品産業動態調査」による。

(単位:トン)

④ 包装もち

包装もち全体の生産量は令和元年まで概ね6万トン程度で推移していたが、令和2年は6万6千トン程度に増加した。
生産の大宗を生切りもちが占めており、最近では板もち、鏡もち及び冷凍もちの生産が減少してきている。

(参考)

包装もちの種類

各種の包装もちは、餅搗きまでの工程（原料米→異物選別→洗米→浸漬→水切り→蒸米→粗ねり→餅搗き）は同様であるが、その後の検査・検品までの工程の違いにより、以下のとおりに分類されている。

板もち：(餅搗き)→計量袋詰→脱気包装→加熱殺菌→冷却→(検査・検品)

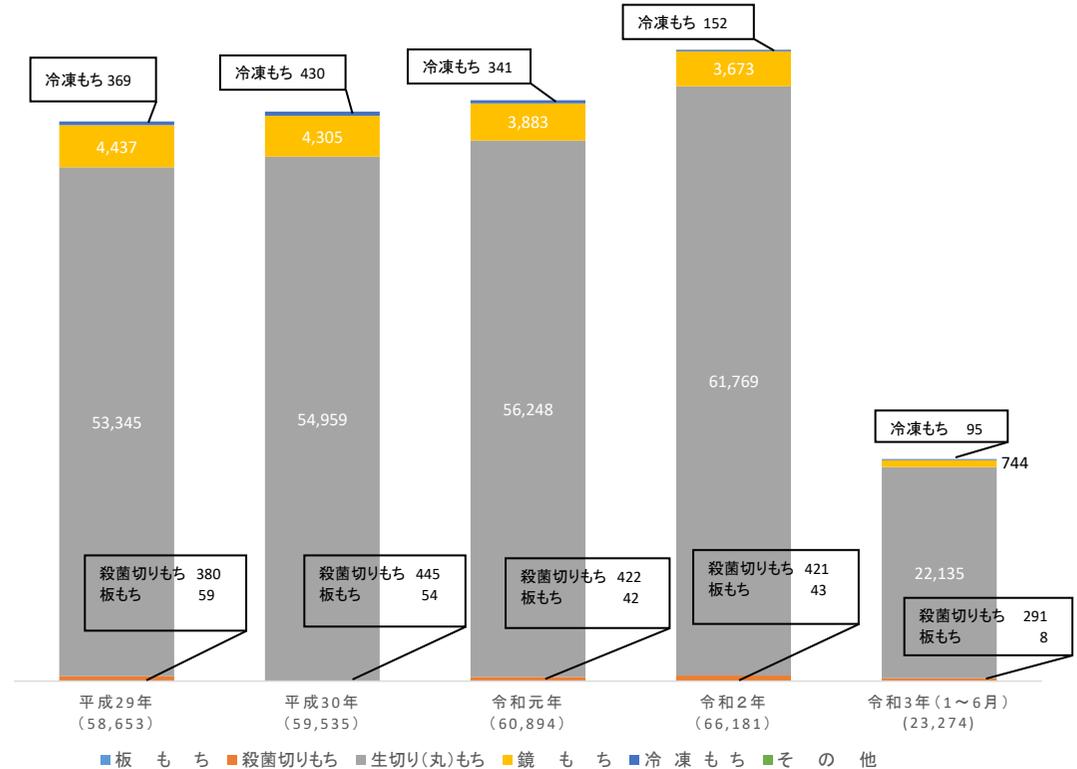
殺菌切りもち：(餅搗き)→成型→冷蔵固化→切断→真空包装→加熱殺菌→冷却固化→袋詰め→(検査・検品)

生切り(丸)もち：(餅搗き)→成型→冷蔵固化→(切断)→(個包装)→袋詰め→(検査・検品)

鏡もち：基本的には板もちの工程と同様であるが、鏡もちの場合は袋ではなく鏡もち用のプラスチックケースに充填する。

冷凍もち：(餅搗き)→成型→軽く固化→切断→急速冷凍→計量・包装→(検査・検品)

④ 包装もちの生産数量



注1:令和2年の包装もちの内訳は業界資料による概数である。

注2:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

資料:農林水産省「食品産業動態調査」による。

3. 加工原材料用米穀の使用状況

- 日本酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の令和元米穀年度における使用量は、日本酒の出荷量の減少等により、前年から微減の約95万トン（推計）である。
- 種類別には、うるち米が約76万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割、残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米である。
- 味噌を中心にMA米の使用量が減少し、特定米穀の使用量が増加した。

○ 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

〈うるち米〉

（単位：万トン）

制度 用途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉 調製品	うるち米 合計
日本酒用	29	12 (10)	9		3			24 (10)
	30	11 (9)	9		4			24 (9)
	元	11 (9)	9		3			23 (9)
米菓用	29	1	2		4	5	1	13
	30	1	1		5	5	2	13
	元	1	2		5	3	2	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	29	5	5					11
	30	5	6					11
	元	4	7					11
味噌用	29	1	1		2	7		10
	30	1	1		2	7		10
	元	1	1		3	5		10
焼酎用 (泡盛含む)	29		2		3	2		8
	30		2		3	2		7
	元		1		4	2		7
米穀粉用	29		1	2	1	2	1	8
	30		1	3	1	2	1	8
	元		1	3	1	2	1	9
その他用	29	1	1		1	1		4
	30	1	2		1	1		4
	元	1	1		1	1		4
合計	29	19	22	2	15	18	2	78
	30	18	21	3	16	16	3	77
	元	16	22	3	18	13	3	76

〈もち米〉

（単位：万トン）

制度 用途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉 調製品	もち米 合計
包装もち用	29	3	3				1	8
	30	2	3				1	7
	元	3	3				1	8
米菓用	29	1	2		1	1	1	6
	30	1	2			1	1	6
	元	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	29	1	1				1	3
	30	1	1				1	3
	元	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	29	1						1
	30	1						1
	元	1						1
その他用	29						1	2
	30						1	2
	元						1	2
合計	29	6	6		1	2	5	19
	30	6	6		1	1	5	19
	元	6	5		1	2	5	19

注1: 日本酒用の()書きは、酒造好適米で内数。

2: 加工用米飯は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3: 焼酎は単式蒸留しよちゅうであり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4: その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5: 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用されるふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

資料: 農林水産省「米に関するマンスリーレポート令和3年10月号」による。

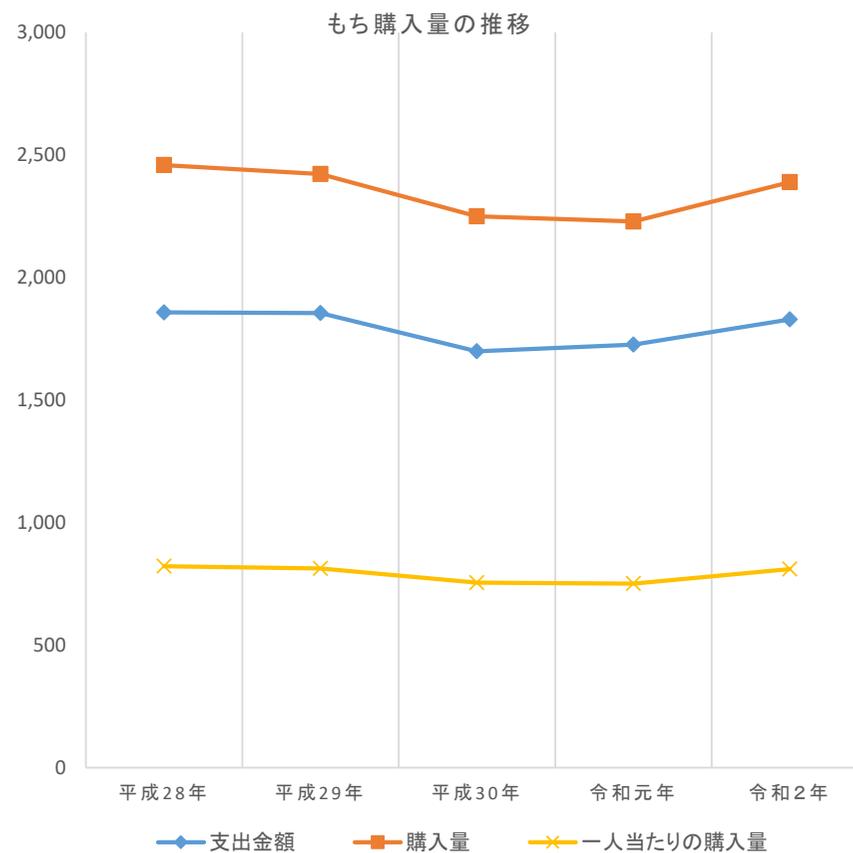
(単位:円、g)

4. 消費

もちの購入量

総務省「家計調査」によれば、もちの一世帯当たりの年間購入量、一人当たり年間購入量とも、平成28年から令和元年までの減少傾向にあったが、令和2年には増加に転じた。

また、令和2年の年間支出額は、令和元年に前年対比101.6%と若干増加したことに引き続き増加（令和元年対比106.0%）している。



○ もちの1世帯当たり年間の支出金額、購入量及び平均価格 (単位:円、g)

区分	支出金額 ①	購入量 ②	平均価格 ①/② (円/100g)	平均世帯人員 ③	一人当たり の購入量 ②/③
平成28年	1,858	2,459	75.6	2.99人	822
平成29年	1,855	2,423	76.5	2.98人	813
平成30年	1,699	2,250	75.5	2.98人	755
令和元年	1,726	2,229	77.5	2.97人	751
令和2年	1,829	2,389	76.6	2.95人	810

注：全国の二人以上世帯の数値である。

資料：総務省「家計調査年報」による。

5. 価格

(1) 生産者価格

業界紙の情報によると、「全農県本部等からJAに通知される「もち米概算金単価」は、30年産から令和2年産まで上げ基調であったが、令和3年産は、イベント・お土産・お祝い需要が消滅して、契約栽培分を除き、200～3,900円の下げ幅」となっている。

○ JA概算金単価

(単位:円/60kg)

区分	品種	元年産 概算金 ①	2年産 概算金 ②	対前年比 (②-①)	3年産 概算金 ③	対前年比 (③-②)	備考
北海道	水稲もち米	11,500	12,000	+500	12,000	±0	
岩手	ヒメノモチ	12,100	12,300	+200	11,500	-800	
	もち美人	11,600	11,800	+200	11,000	-800	
	こがねもち(A地区)	12,600	12,800	+200	12,000	-800	
宮城	みやこがねもち	13,500	13,500	±0	13,000	-500	
秋田	水稲もち米	8,000	8,000	±0	8,000	±0	
福島	こがねもち	10,000	11,500	+1500	9,500	-2,000	
	ヒメノモチ	10,000	11,500	+1500	9,500	-2,000	
	その他の水稲もち米	8,000	9,500	+1500			
山形	ヒメノモチ	13,000	13,500	+500	10,500	-3,000	
	その他の水稲もち米	10,500	11,000	+500	9,000	-2,000	
千葉	水稲もち米	8,500	9,500	+1,000	9,300	-200	
富山	新大正糯	13,000	14,000	1,000	13,500	-500	
	その他の水稲もち米	12,200	13,200	1,000	12,700	-500	
新潟	こがねもち(契約栽培)	16,000	16,400	+400	16,400	±0	
	こがねもち(契約外)	15,500	15,900	+400	12,000	-3,900	
	わたぼうし(契約栽培)	14,000	14,400	+400	14,400	±0	
	わたぼうし(契約外)	13,500	13,900	+400	11,000	-2,900	
石川	水稲もち米	12,000	12,000	±0	11,000	-1,000	
茨城	水稲もち米	10,500	10,500	±0	9,000	-1,500	
岐阜	たかやまもち(A地区)	15,000	15,100	+100	15,100	±0	
佐賀	ヒヨクモチ	12,500	-	-	12,000	-	

注1: 業界紙で報道された全農県本部等からJAに対する概算金単価を整理したものである。

2: 価格は、60kg・1等・包装込み・税込みである。

3: 実際の生産者価格は本概算金から農協手数料を差し引いた額(追加払い金がある場合はこれを加算した額)になると考えられる。

(2)販売価格

もち米取引を安定的に行うため、全国集荷団体ともち米需要者団体との間で、「契約栽培」と「年間契約」が取り交わされている。
 当該契約の取引のベースとなる基準価格は、安定取引を継続する観点から、これまで大きな変動はあまり見られなかったが、平成29年産は当時の需給事情等を反映して、複数の産地で引き下げられた。
 令和2年産契約栽培の基準価格はほとんどの産地で前年産から100円～500円の幅で価格が引き上げられたが、令和3年産は前年産と同額の基準価格となった。

○ もち米の販売価格

① 契約栽培

(単位:円)

産地	銘柄	基準着地	令和元年産契約栽培基準価格	令和2年産契約栽培基準価格	令和3年産契約栽培基準価格	令和3年産契約栽培販売価格	
北海道	はくちょうもち	東京	14,300	↗	14,800	-	14,800
	風の子もち	東京	14,300	↗	14,800	-	14,800
	きたゆきもち	東京	14,300	↗	14,800	-	14,800
	きたふくもち	東京	14,300	↗	14,800	-	14,800
岩手	こがねもち(A地区)	東京	16,180	↗	16,480	-	16,480
	ヒメノモチ・もち美人	東京	15,000	↗	15,300	-	15,300
宮城	みやこがね(一般地区)	東京	16,593	↗	17,060	-	17,060
	みやこがね(特A地区)	東京	16,893	↗	17,360	-	17,360
秋田	たつこもち・きぬのはだ	東京	15,000	↗	15,300	-	15,300
山形	ヒメノモチ	東京	14,500	↗	14,800	-	14,800
新潟	こがねもち	東京	17,800	↗	18,100	-	18,100
	わたぼうし	東京	16,000	↗	16,300	-	16,300
岐阜	たかやまもち	大阪	15,800	↗	15,900	-	15,900
静岡	峰の雪もち	(産地在姿)	14,300	↗	14,500	-	14,500
福岡	ヒヨクモチ	大阪	15,240	↗	15,360	-	15,360
佐賀	ヒヨクモチ	大阪	15,400	↗	15,500	-	15,500
熊本	ヒヨクモチ	大阪	14,800	↗	15,000	-	15,000
	峰の雪もち	大阪	14,400	-	14,400	-	14,400

注1:生産・集荷団体資料による。

2:建値:60kg、1等、紙袋、基準着地持込価格(税別)である。ただし、静岡県は「置場」である。

3:販売価格は基準価格に対し±5%の幅で出来秋に決定されている。

② 年間契約

(単位:円)

産地	銘柄	基準着地	30年産年間契約販売価格	令和元年産年間契約販売価格	令和2年産年間契約販売価格	令和3年産年間契約販売価格			
北海道	はくちょうもち	東京	-		14,500	↗	15,000	-	15,000
	風の子もち	東京	14,500	-	14,500	↗	15,000	-	15,000
	きたゆきもち	東京	-		14,500	↗	15,000	-	15,000
	きたふくもち	東京	-		-		15,000	-	-
岩手	こがねもち(A地区)	東京	16,180	-	-	-	-	-	-
	ヒメノモチ・もち美人	東京	15,000	-	15,000	-	-	-	-
宮城	みやこがね(一般地区)	東京	16,593	-	-	-	-	-	-
	みやこがね(特A地区)	東京	16,893	-	-	-	-	-	-
秋田	きぬのはだ	東京	-	-	-	-	-	-	
山形	ヒメノモチ	東京	-	-	-	-	-	14,800	
新潟	こがねもち	東京	-	-	-	17,750	-	-	
	わたぼうし	東京	-	-	-	14,700	-	-	
岐阜	たかやまもち	大阪	15,800	-	15,800	-	-	-	
静岡	峰の雪もち	-	-	-	-	-	-	-	
福岡	ヒヨクモチ	大阪	-	-	-	-	-	-	
佐賀	ヒヨクモチ	大阪	15,300	-	-	-	-	15,500	
熊本	ヒヨクモチ	大阪	-	-	-	-	-	-	
	峰の雪もち	大阪	-	-	-	-	-	-	

注1:生産・集荷団体資料による。ただし、令和3年産価格は第1回年間契約分までのものである。

2:建値:60kg、1等、紙袋、基準着地持込価格(税別)である。

(3) 小売価格

① もち米の小売価格

総務省「小売物価統計調査」によると、もち米の小売価格は1kg当たり500円台を中心に400円台から600円台まで幅広く分布しているが、令和2年調査結果を単純平均した小売価格は561円となり、近年横ばいで推移してきた価格が上昇した。(令和元年の平均価格対比103%)

(単位:円/kg)

区 分	平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		
	対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		
北海道	札幌市	513	▲3	513	0	518	5	524	6
青森	青森市	607	▲7	585	▲22	544	▲41	571	27
岩手	盛岡市	580	37	597	17	559	▲38	618	59
宮城	仙台市	623	24	617	▲6	608	▲9	612	4
秋田	秋田市	515	17	491	▲24	454	▲37	463	9
山形	山形市	610	23	597	▲13	608	11	627	19
福島	福島市	627	▲68	628	1	668	40	728	60
茨城	水戸市	570	42	576	6	558	▲18	566	8
栃木	宇都宮市	537	▲6	509	▲28	514	5	568	54
群馬	前橋市	476	▲11	487	11	490	3	501	11
埼玉	さいたま市	625	2	627	2	631	4	640	9
千葉	千葉市	598	▲25	608	10	587	▲21	585	▲2
東京	東京都区部	616	▲3	607	▲9	601	▲6	615	14
神奈川	横浜市	573	▲10	567	▲6	571	4	591	20
山梨	甲府市	568	0	569	1	572	3	574	2
長野	長野市	462	▲14	484	22	546	62	508	▲38
新潟	新潟市	561	0	563	2	564	1	568	4
富山	富山市	540	▲6	540	0	548	8	554	6
石川	金沢市	606	23	605	▲1	588	▲17	591	3
福井	福井市	571	6	573	2	575	2	578	3
岐阜	岐阜市	603	▲2	594	▲9	567	▲27	588	21
静岡	静岡市	558	▲6	549	▲9	558	9	588	30
愛知	名古屋市	541	3	545	4	515	▲30	531	16
三重	津市	493	8	490	▲3	489	▲1	488	▲1
滋賀	大津市	684	21	682	▲2	680	▲2	639	▲41
京都	京都市	563	1	584	21	583	▲1	588	5
大阪	大阪市	574	3	566	▲8	575	9	565	▲10
兵庫	神戸市	570	▲1	572	2	576	4	556	▲20
奈良	奈良市	497	▲9	493	▲4	499	6	512	13
和歌山	和歌山市	505	▲10	506	1	501	▲5	526	25
鳥取	鳥取市	618	1	579	▲39	606	27	606	0
島根	松江市	548	▲10	564	16	539	▲25	547	8
岡山	岡山市	529	21	502	▲27	506	4	516	10
広島	広島市	557	3	547	▲10	534	▲13	542	8
山口	山口市	485	▲5	491	6	517	26	539	22
徳島	徳島市	466	▲26	497	31	504	7	524	20
香川	高松市	457	▲5	459	2	472	13	503	31
愛媛	松山市	519	2	510	▲9	495	▲15	502	7
高知	高知市	592	▲6	605	13	597	▲8	608	11
福岡	福岡市	491	▲25	469	▲22	472	3	517	45
佐賀	佐賀市	521	2	523	2	523	0	559	36
長崎	長崎市	461	▲3	447	▲14	466	19	522	56
熊本	熊本市	491	▲1	509	18	516	7	529	13
大分	大分市	492	7	501	9	507	6	576	69
宮崎	宮崎市	531	▲10	522	▲9	528	6	532	4
鹿児島	鹿児島市	488	6	492	4	474	▲18	506	32
沖縄	那覇市	588	6	586	▲2	578	▲8	578	0

注：都道府県庁所在地における国内産もち米(単一原料又は複数原料米、袋入り(1~2kg))の年平均小売価格である。

資料：総務省「小売物価統計調査(動向編)」(2020年次統計表)による。

(参考) ○ 上記のもち米小売価格の単純平均価格 (単位:円/kg)

29年平均	30年平均	元年平均	2年平均
549	547	546	561

② もちの小売価格

総務省「小売物価統計調査」によると、もちの小売価格は1kg袋当たり600~700円台が多く分布しているが、令和2年調査結果を単純平均した価格は687円/1kg袋となっており、3年前の平成29年調査の平均価格と比べ25円(3.5%)値下がりしている。

(単位:円/1kg袋)

区 分	平成29年		平成30年		令和元年		令和2年		
	対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		
北海道	札幌市	709	▲4	688	▲21	679	▲9	694	15
青森	青森市	743	▲15	767	24	758	▲9	767	9
岩手	盛岡市	684	▲1	679	▲5	672	▲7	656	▲16
宮城	仙台市	591	▲66	591	0	589	▲2	591	2
秋田	秋田市	762	5	746	▲16	763	17	736	▲27
山形	山形市	688	40	681	▲7	634	▲47	614	▲20
福島	福島市	679	▲69	682	3	677	▲5	681	4
茨城	水戸市	804	▲111	793	▲11	743	▲50	654	▲89
栃木	宇都宮市	748	▲46	783	35	770	▲13	740	▲30
群馬	前橋市	787	▲3	740	▲47	754	14	732	▲22
埼玉	さいたま市	767	▲9	688	▲79	716	28	726	10
千葉	千葉市	772	▲3	765	▲7	770	5	773	3
東京	東京都区部	707	0	717	10	734	17	743	9
神奈川	横浜市	687	68	656	▲31	589	▲67	586	▲3
山梨	甲府市	677	0	692	15	684	▲8	603	▲81
長野	長野市	678	51	772	94	804	32	809	5
新潟	新潟市	696	▲82	722	26	696	▲26	696	0
富山	富山市	646	▲18	637	▲9	642	5	641	▲1
石川	金沢市	677	▲55	675	▲2	663	▲12	655	▲8
福井	福井市	641	▲4	646	5	642	▲4	639	▲3
岐阜	岐阜市	609	▲9	612	3	616	4	614	▲2
静岡	静岡市	733	▲16	729	▲4	723	▲6	708	▲15
愛知	名古屋市	703	10	704	1	717	13	693	▲24
三重	津市	767	5	752	▲15	765	13	670	▲95
滋賀	大津市	761	▲11	746	▲15	757	11	737	▲20
京都	京都市	663	▲21	673	10	650	▲23	637	▲13
大阪	大阪市	629	9	632	3	644	12	631	▲13
兵庫	神戸市	661	55	678	17	675	▲3	678	3
奈良	奈良市	694	▲24	653	▲41	649	▲4	632	▲17
和歌山	和歌山市	645	▲128	645	0	646	1	647	0
鳥取	鳥取市	674	▲4	673	▲1	654	▲19	647	▲7
島根	松江市	842	▲6	862	20	806	▲56	814	8
岡山	岡山市	825	44	796	▲29	753	▲43	717	▲36
広島	広島市	675	▲71	686	11	709	23	688	▲21
山口	山口市	704	4	693	▲11	680	▲13	677	▲3
徳島	徳島市	788	▲2	729	▲59	716	▲13	726	10
香川	高松市	830	5	825	▲5	812	▲13	814	2
愛媛	松山市	738	3	705	▲33	708	3	723	15
高知	高知市	591	▲5	587	▲4	584	▲3	584	0
福岡	福岡市	749	0	749	0	738	▲11	708	▲30
佐賀	佐賀市	676	▲17	723	47	717	▲6	724	7
長崎	長崎市	752	33	797	45	701	▲96	664	▲37
熊本	熊本市	817	▲31	831	14	784	▲47	744	▲40
大分	大分市	591	0	625	34	682	57	591	▲91
宮崎	宮崎市	712	▲87	756	44	716	▲40	668	▲48
鹿児島	鹿児島市	800	▲31	698	▲102	709	11	726	17
沖縄	那覇市	368	▲5	368	0	700	332	626	▲74

注：都道府県庁所在地における包装もち(1kg袋入り、普通品)の年平均小売価格である。ただし、那覇市の価格は平成30年調査まで400g袋入りの価格である。

資料：総務省「小売物価統計調査(動向編)」(2020年次統計表)による。

(参考) ○ 上記のもち小売価格の単純平均価格 (単位:円/1kg袋)

29年平均	30年平均	元年平均	2年平均
712	710	702	687

注：那覇市の価格は、平成30年調査まで400g袋のものであるため、平均算出から除いている。

6. 輸出入

(単位:トン)

(1) もち米等の輸入

① もち米

もち米の輸入量は一般輸入米、SBS米合わせて、近年は13千トン程度で推移したが、令和2年度は約8.5千トンであった。輸入元はタイ(長粒種)とアメリカ(短粒種)である。

(参考)

・ コメの輸入制度

- ガット・ウルグアイ・ラウンド合意(WTO協定)に基づき、それまで輸入がほとんど行われていなかった米についても、最低限の輸入機会を提供することとし(ミニマム・アクセス米(MA米))、1995年度以降、ミニマム・アクセス数量(現在は77万玄米トン)について、無税の輸入枠(関税割当)を設定。
- MA米については、国産米に極力影響を与えないようにするため、国が一元的に輸入して販売(国家貿易)。
- TPP11協定においては、国家貿易制度を維持し、豪州向け国別枠(関税割当)を設定。
- MA米及びTPP11豪州枠以外の輸入には、高水準の枠外税率を設定。
- 令和2年度の輸入数量は、一般輸入米が699千玄米トン、SBS米が60千実トンである。

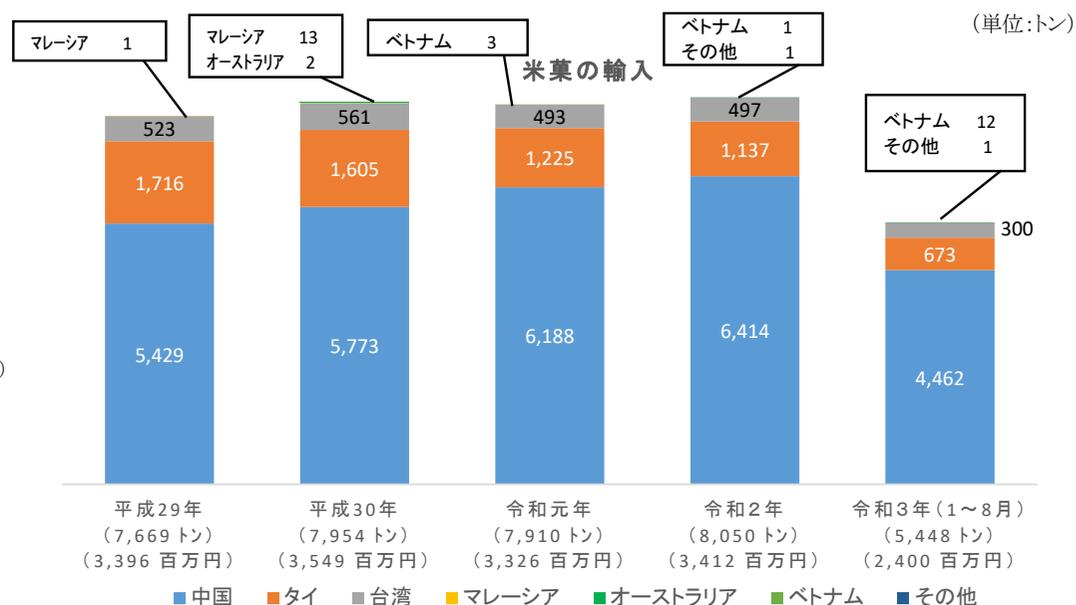
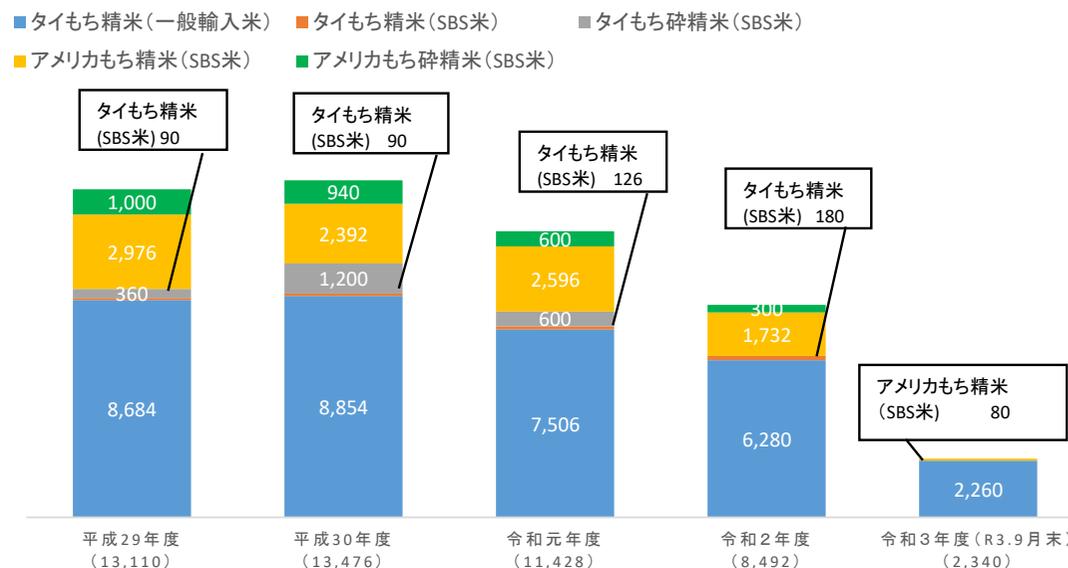
(出典：農林水産省「米をめぐる状況について(令和3年4月)」から。)

② 米菓

米菓の輸入量は最近では8千トン程度で推移しており、輸入元は中国、タイ、台湾などであるが中国が全体の約8割を占めている。

(出展：財務省「貿易統計」(2021年8月までのデータ)による。)

もち米の輸入量(MA米)



注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

③ 米粉調製品

米粉調製品の輸入量は平成26年以前の8～9万トンの水準から大幅に減少したが、令和2年では7.1万トン程度となっている。タイ、アメリカ、中国からの輸入が太宗を占めている。

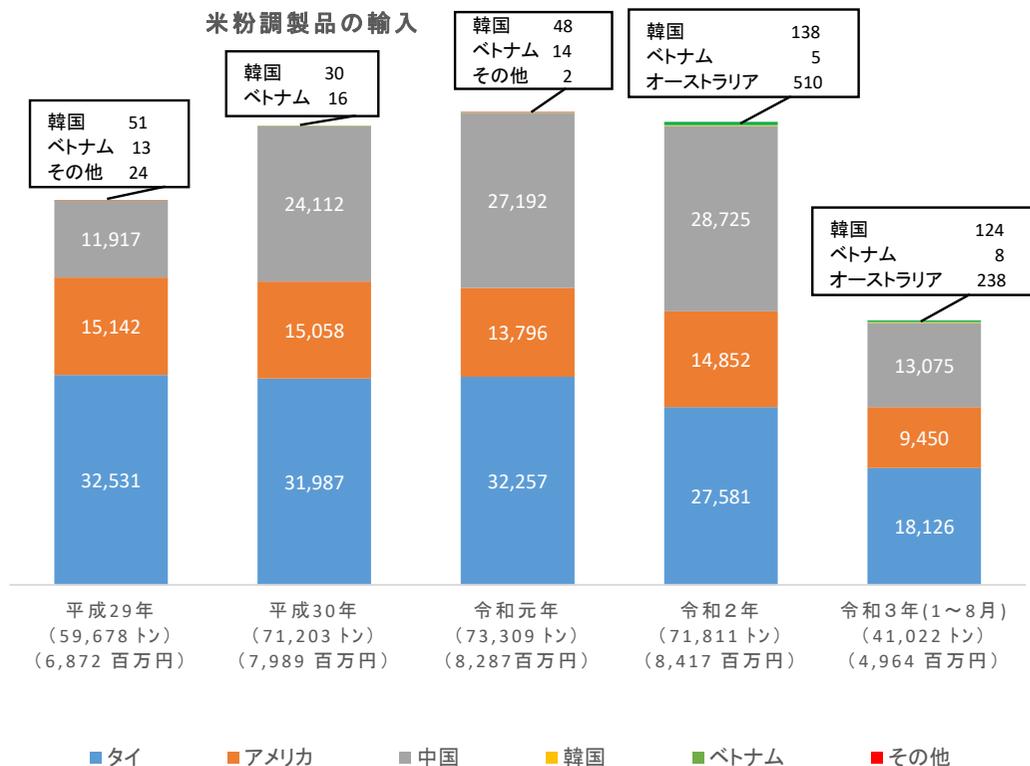
(参考) 米粉調製品とは

米粉調製品は、米粉に砂糖やでん粉を混入したもので、米菓、穀粉、包装もち等の原料として使用される。
 米粉の含有量が85%以下のものは、昭和37年から輸入が自由化されており、関税率は16.0% (無糖)、23.8% (加糖) となっている。
 なお、米粉の含有率が85%を超えるものは、米と同様の税率 (341円/kg) となっている。

〔 出典：農林水産省「農林水産物 品目別参考資料(平成27年11月)」、「米粉調製品の輸入実態とその影響(平成13年3月26日)」 〕

米粉調製品の輸入

(単位:トン)



注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(出展：財務省「貿易統計」(2021年8月までのデータ)による。)

(2) 米・米加工品の輸出

- ・2020年のコメ・米菓・日本酒の輸出額は339億円(前年比5%増)。
- ・うちコメの輸出は前年比15%増の53億円(数量では19,687トン、前年比13%増)。特に香港・台湾向けの輸出が大幅に増加。
- ・昨年取りまとめられた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」では、コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品を27の輸出重点品目の一つに選定し、2025年の輸出目標額を125億円と掲げたところ。

○ コメ・コメ加工品の輸出実績の推移

- ・2021年1月～8月のコメ・コメ加工品の輸出額は319億円(対前年同期比69%増)。うちコメの輸出実績は対前年同期比+7%の36億円、米菓は+35%の36億円、日本酒は+97%の242億円、パックご飯は-5%の4億円、米粉及び米粉製品は-5%の0.4億円。

(単位:トン、日本酒数量はキログラム、億円、%)

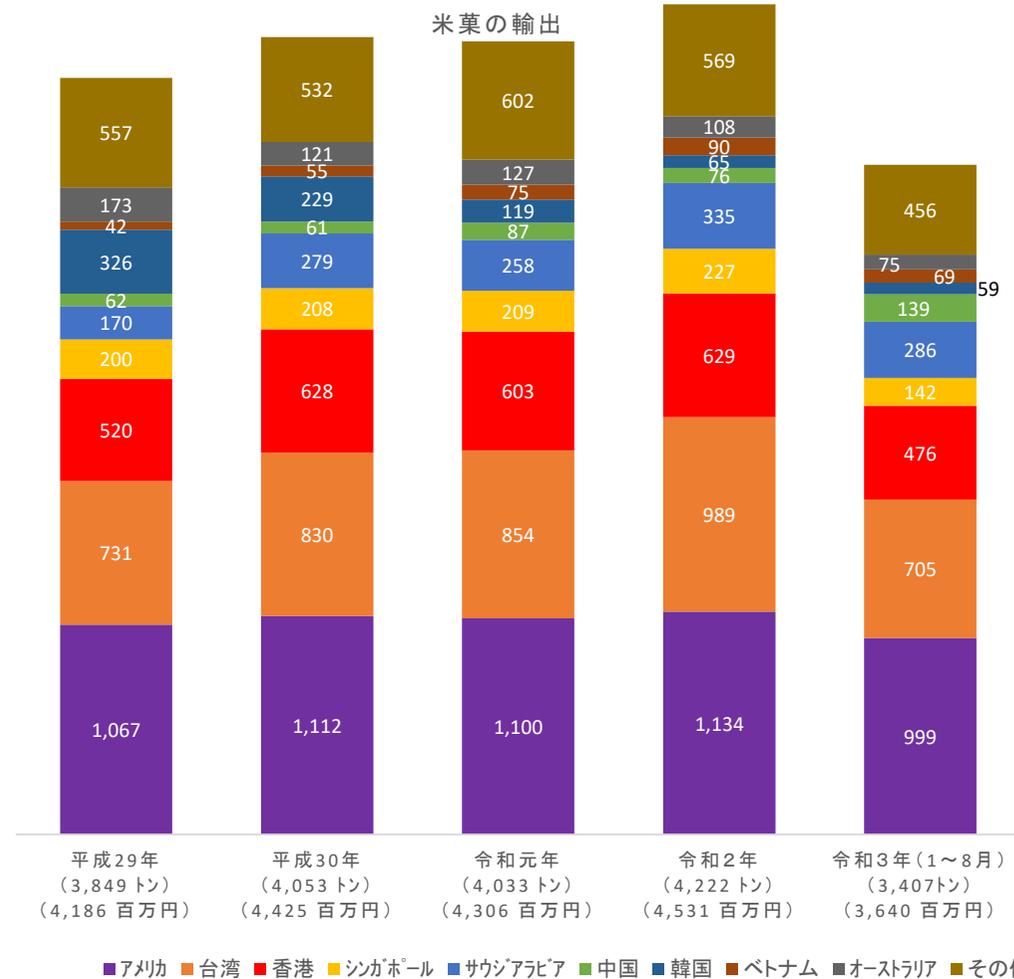
品目名	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年		(参考) 主な輸出 先国	
					1～8月	対前年比		
コメ・ コメ加工品	数量 (原料米換算)	28,668	32,202	35,505	36,442	28,667	+31	アメリカ 香港、中国 台湾 シンガポール
	金額	264	309	329	347	319	+69	
コメ(援助 米を除く)	数量	11,841	13,794	17,381	19,687	13,948	+11	香港 シンガポール アメリカ、台 湾 オーストラリア
	金額	32	38	46	53	36	+7	
米菓 (あられ・ せんべい)	数量	3,849	4,053	4,033	4,222	3,407	+34	アメリカ、 台湾、香 港、 中国 サウジアラビア
	原料米換算	3,272	3,445	3,428	3,589	2,896	+34	
日本酒 (清酒)	数量	23,482	25,747	24,928	21,761	20,182	+71	中国 アメリカ、香 港 シンガポール 台湾
	原料米換算	13,227	14,502	14,041	12,257	11,368	+71	
パックご 飯等	数量	658	923	1,018	1,203	752	-1	アメリカ 香港、台湾 ベトナム、タイ
	原料米換算	329	461	509	601	376	-1	
米粉及び 米粉製品 (米粉麵 等)	数量			118	249	64	-50	タイ、アメリカ オランダ、香 港 イタリ
	原料米換算			146	308	79	-50	
コメ・パックご 飯・米粉及び 米粉製品	数量 (原料米換算)	12,170	14,255	18,036	20,596	14,403	+10	アメリカ 香港、中国 台湾 シンガポール
	金額	35	42	52	60	41	+6	

(出典：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」(令和3年10月号)による。)

○ 米菓の輸出

米菓の輸出量は4千トン程度で推移している。東南アジア、欧米、中東、北南米と世界各国に輸出されているが、最近4か年ではベトナム向け、サウジアラビア向け、台湾向け、中国向け及び香港向けなどが増加している。

(単位:トン)



(出典：財務省「貿易統計」(2021年8月までのデータ)による。ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。)